

本メルマガ、今号で第50号になりました。発刊から4年余り、会員登録数も1,569人さまに増えています。これからも末永くご愛読くださいますようお願いいたします。次号は11月20日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 50

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 「おはなしモノレール」参加者募集

大阪高速鉄道「万博記念公園駅」から「彩都西駅」まで、貸切モノレールに乗って、車内で絵本や「おはなし」を楽しみ、彩都の会場では「人形劇」を観ていただくお子様向けのイベントです。

5歳から小学校3年生までのお子様と保護者の方、あわせて240人を募集します。11月9日(日)の午後で、参加費は、お一人500円(大人・子ども同額)です。申込締切は10月27日(月)必着。詳細は↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/01\\_kids/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/01_kids/index.html)

● 「第31回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日(金)です。詳細は↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/02\\_nissan/index.html#31boshu](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#31boshu)

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第28号の原稿を募集しています。詳細は ↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/06\\_res-pub/04\\_journal/boshu.html](http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html)

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

## 【2】コラム

\*\*\*\*\*

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

\*\*\*\*\*

「ベルリン」3部作（『ベルリン1919』『ベルリン1933』『ベルリン1945』）  
クラウス・コルドン/作 酒寄進一/訳 理論社 2006年2月、2001年2月、  
2007年2月 対象年齢：中学生以上

あらすじ：ナチスが台頭する直前の1919年、ヒトラーが首相になる1933年、ドイツが敗戦を迎える1945年の3つの時代を背景に、下町に暮らす労働者のゲープハルト家の様子を描いた大作。第1作は13歳のヘレの視点でドイツ革命が描かれ、第2作はヘレの弟で15歳のハンスの視点でユダヤ人の恋人やナチ党員と結婚した姉など周りの人々の様子が描かれ、第3作はヘレの12歳の娘であるエンネの視点で、空襲の様子、親代わりの祖父母、思想犯として投獄されていた父ヘレの帰宅などが描かれる。

Y：11月30日、ドイツの児童文学作家クラウス・コルドンさんが大阪府立中央図書館でご講演されます\*ので、今回は代表作「ベルリン」3部作を取り上げました。

O：たいへん興味深く読みました。著者は1943年に生まれ、東ドイツで育ち、逃亡を試みて失敗したという経験を持っています。ベルリンに生まれ育った著者の「歴史」を書き残さねばならないという意志を強く感じました。

Y：この本が出版された時には日本で出版された順に読みましたが、今回は『ベルリン1919』から読むことによって、戦争や政治に翻弄されながら生きる多くの人々の人生について考えることができました。そして、誰が正しい、何が正しいということが書かれずに、読者に考えを促す書かれ方に惹かれました。

O：読みながら、ある意味似たような状況がある今の時代に、大人として「何をしているの」と問われ続けているような気がしています。

Y：『ベルリン1919』はヘレの父親ルディが第一次世界大戦から片腕を失って帰宅するところから始まります。暮らしをよくするためには、政治がよくなることだと自分の理想を追い続けようとするルディと、ルディを支えながらも家族が生きることを最優先するヘレの母マリーは3作通して登場し、「生きる」とは何かを考えさせてくれます。

O：時には政治的主張を曲げても家族のサバイバルを最優先するマリーの生き方に一つの理想像をみまじ、次男ハンスの生き方には共感できました。3作にはナチ党に入党する人も含めさまざまな立場の人が登場しますが、それらの人々の描かれ方が公平で、一つの政治的立場になって書かれてはいません。家族の中ですらさまざまな政治的立場の対立があるのが書かれています。大部なものですが読めてよかった、中高校生にも、いま、読んで欲しいなあ~と思います。

\* 国立国会図書館 国際子ども図書館、大阪府立中央図書館、当財団の主催。定員になりましたので、申込み受付は終了しました。

\*\*\*\*\*

## 《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 50

\*\*\*\*\*

### その9 おはなしを語る(2) 語るということ2

おはなしを体験するということは、現実の世界では絶対に体験できないようなことが体験できたり、出会うことのできない人に出会ったりできることがあります。

このことは、語り手の側に立つと、現実の世界ではなることのできない心からの善人や憎しみにあふれた悪人になったりすることができることとなります。そして、現実ではありえないような出来事を「本当」のように騙(かた)ることができます。

また、聞き手にとって、おはなしを聞くということは、ことばのリズムや音を楽しむということがありますが、語り手にとっては、声帯を含むからだを使って、「こえ」というリズムや抑揚、大きさに変化を持たせた「音」を響かせるということになります。語り継がれたおはなしには、その言語の持つ力が感じられます。

おはなし会を見ていると、語り手がおはなしを覚えることに一所懸命で、別人になることや、ことばが「音」であることに無頓着であるように見受けられることがあります。また、淡々と語る事が正しいと考えて、まるで本を読んでいるように語っている人を見かけます。

けれども、語りの特徴を考えると、ただ、書かれた内容を覚えて単に声を出すだけでは語るとはいえないことがわかります。

\* 次号は「その9 おはなしを語る(3) おはなしを選ぶ 1」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。(Y)

\*\*\*\*\*

## 《3》 サイト紹介 一子どもの本をリサーチするー

\*\*\*\*\*

一次資料データベース篇 30 回目。今回は、当財団が構築したサイトをご紹介します。

●大阪国際児童文学振興財団

日本の子どもの本 100 選【戦前編】・同【戦後編】

<http://www.iiclo.or.jp/100books.htm>

本サイトは、日本の児童文学史上、読み継がれるべき作品、もしくは記念碑的な意味合いを持つ作品を、戦前編・戦後編各 100 点、計 200 点を選び、それら資料の書誌および解題に加えて、表紙や本文・挿絵等の書影を掲載したものです。

児童文学研究者のチームによる編集で、戦前(明治 2~昭和 19 年)・戦後(昭和 22~53 年)の児童文学作品から選択しているところにまずは特徴があります。また、初版原本はいうまでもなく、資料の異版や再版を含む当該

資料にできるだけ多くあたり、実見したうえで差異などの内容、児童文学史上の位置づけや今日的意味、受賞情報などを解説しています。さらに、英訳を付し、海外にも日本の児童文学の概要が発信されていることも特色といえます。

児童書のうち「文芸書・読物・詩集・戯曲集・絵本・マンガ」が対象で、選択基準は「将来に残したい作品」「各時代を代表する作品」「後代に影響を与えた作品」とされています。

「戦前編」でまず取り上げられているのは、明治2年の『世界国尽』。〈福沢諭吉が「児童婦女子」のために書いた明治期の地理の啓蒙書で、教科書としても使用されてベストセラーになった〉(解題より)。

さらに、北原白秋の童謡(トンボの眼玉)、吉屋信子の少女小説(花物語)、高垣眸の冒険小説(豹の眼)、島田啓三のマンガ(冒険ダン吉)など、いずれも当時熱狂的な人気を博した作品群が取り上げられています。

一方、「戦後編」は、石井桃子『ノンちゃん雲に乗る』(昭和22年)からスタート。竹山道雄『ビルマの竖琴』とともに、戦後児童文学を考えるに大事な作品で、のちの石井桃子の原点にもなったといわれています。そのほか、手塚治虫のマンガ、いぬいとみこや佐藤暁のファンタジー、神沢利子の幼年童話や阪田寛夫の童謡などがあります。眺めていると、懐かしい作品に出会えそうです。(J)

※次号は、資料所在情報データベース〈補遺篇〉の予定です。

\*\*\*\*\*

#### 《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

京都国立博物館で11月24日まで開催されている「国宝 鳥獣戯画と高山寺」展に行ってきました。「鳥獣人物戯画」の保存修復作業が完了したことを記念して開催されています。

展示の始めは高山寺と明恵上人について解説されていて、高山寺に所蔵されている書物や絵や仏像など国宝や重要文化財がたくさん展示されています。明恵上人の見た夢を記した日記、漢字字典や『論語』の写本など、読めばおもしろそうな書物がずらりと並んでいます。明恵上人が樹上で座禅をくむ絵の中に描かれた小鳥やリスを探したり、漆塗りの厨子の中に描かれた聖徳太子を覗いたりしながら、貴重な品々を見ていきました。

そして、「鳥獣人物戯画」の展示です。たくさんの方が並んでいましたが、音声ガイド(別料金)を聞いて予習しながら順番を待ち、列の流れのって横歩きに見ていきました。甲・乙・丙・丁の全4巻のそれぞれ半分ずつ、前期後期に分けて展示されるそうです。甲巻は『かえるのごほうび』(福音館書店1967年)などの絵本になっていて、擬人化された動物たちが水遊びをしたり、弓矢をひいたり、相撲をとったりしている見覚えのある絵の巻です。

乙巻は擬人化ではなく動物図鑑的な感じ、丙丁巻には動物の他に人物も描かれています。乙巻のちらりとこちらを向いている牛の顔や、丁巻の僧侶があ

がめている祭壇に祭られているのが、真っ黒な蛙か宇宙人のような絵の掛け軸だったりするなど、マンガっぽくておもしろい部分もいっぱいありました。どの巻も言葉は書かれていませんが、登場する動物や人間たちの動きや表情から、楽しい声が聞こえてきそうです。マンガや絵本等の源流と言われたりしていることに納得しました。

平安時代や鎌倉時代のものが、こんなにきれいな状態で見ることができ、墨の濃淡や筆圧を感じることができるのに驚きました。同じ巻に2種類の紙が使われていることや、元々は紙の裏表に描かれていたものを2枚に剥がしている部分があることなど、「保存修理」をして新しくわかったことや、修理の様子映像なども紹介されていてとても興味がわきました。並ぶのを覚悟して後期も見に行きたいと思いました。(K)

---

### 【3】全国のイベント紹介

---

#### ● 人形劇公演「貧乏神と福の神」

出 演：人形劇サークル「ぱれっと」（大阪国際児童文学振興財団所属）

日 時：10月25日（土）午後2時～2時40分

会 場：大阪府立中央図書館 2階大会議室（東大阪市荒本）

参加費：無料 対 象：どなたでも 申込み：不要

主 催：大阪府立中央図書館 こども資料室

#### ● 資料展示「生誕120年記念 武井武雄のおもちゃ箱展」

「こどもの魂にふれる絵」をめざした童画家・武井武雄の作品を、国際児童文学館の所蔵資料を中心に紹介します。大正・昭和に生み出されたおもちゃ箱のような世界は、今なお子どもや大人のココロを躍らせます。

会 場：大阪府立中央図書館 1階展示コーナーほか（東大阪市荒本）

期 間：開催中～12月28日（日）休館日あり

料 金：無料

主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館

◇「わかるかな？ 童画の王さま・武井武雄クイズ！！」

展示を見て、クイズに答えるとプレゼントがあります。

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

---

### 【4】プレゼント

---

本メルマガ50号を記念して、当財団の2013年度国際交流事業報告集「絵本作家 ローレン・チャイルドの国際講演会&子ども向けワークショップ」を3名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.50 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ [office@iiclo.or.jp](mailto:office@iiclo.or.jp) にお送りください。

